

## 2. 仙台市議会の現状—議員の通信簿

### 第1部 本会議場での議員の態度についての評価

議員評価の第1の柱は、本会議場での議員の態度についての評価である。私たちが、評価対象とした行為は、離席、居眠り、私語の3項目である。これらは「議論」に集中していないことを示す指標で、何れも「議論の場」としての議場でとるべき態度ではない。学校でいえば、勝手に教室を抜け出す、授業を聴かず眠る、おしゃべりをするという状況で、これが度を過ぎれば学級崩壊となる。この3つの項目について指摘回数の多い議員ほど評価は低いことになる。なお、公正を期して、離席、居眠り、私語の認定は、2人以上の傍聴者がカウントした場合に限定した。

表1は、平成20年第2回定例会（平成20年6月11日開始）から平成22年第4回定例会（平成22年12月17日終了）までの、定例会ごとの結果をまとめたものである。表の●がそれぞれの行為を指摘された議員を示す。数字は、会期中にその行為を指摘された会期日数を示す。例えば、平成20年第2回定例会の庄子晋議員の居眠りの6は、7会期日数中6会期日で居眠りが認定されたことを示している。最後の合計欄の数字は、会期の合計日数中それぞれの行為を指摘された合計日数を示す。総合計欄の数字は、3項目の合計日数を示す。なお、任期途中で死亡、辞職の議員は評価対象に加えていないが、途中までの状況を参考までに掲げておいた。

以上の結果を数字の大きい順に、つまり議場での態度の悪い順にランキング化したのが、表2である。

#### (1) 離席ランキング

まず離席ランキングであるが、ワースト10に名を連ねるのは、岡征男、佐々木両道、大内久雄、田村稔、笠原哲、渡辺公一、八島幸三、庄子晋、小山勇朗、赤間次彦、大泉鉄之助の各議員で、ほとんどが5期以上のベテラン議員である。この中でも際立って離席日数が多いのは、岡、佐々木の両議員で、それぞれ80会期日数中51日、45日を数え、その率は63.75%、56.25%を占める。庄子晋議員（6期）のランクはワースト7位だが、離席時間が長いのが特徴である。例えば、平成20年の第2回定例会（6月19日）、第3回定例会（9月16日）では90分以上、平成21年第2回定例会（6月15日）では60分、同第4回定例会（12月11日）では65分、平成22年第2回定例会（6月8日）では80分もの間、議場を抜け出している。時間の記載はないが、平成21年第3回定例会（9月14日）の記録には「長時間離席そのまま戻らず」とメモが残されている。ワースト2位の佐々木議員についても、30分以上の記載が9回を数える。離席議員が一体どこで何をしているのか、傍聴者には知る由もない。生理的な欲求を含めて、なんらかの事情でたまに席を離れることはあるだろうが、長時間の離席など極端な事例については議長から然るべく注意が必要だと思っただけで、そうした光景はついぞ見たことがない。

#### (2) 居眠りランキング

次に居眠りランキングであるが、ワースト3は、80会期日数中60日以上で居眠りを指摘された笠原哲、庄子晋、郷湖健一の3議員で、75～81%の会期日の議場で「おやすみ」になられていたわけである。次いで、岡征男、渡辺公一、鎌田城行、伊藤新治郎、大内久雄、鈴木繁雄、大槻正俊、佐藤正昭議員が30～50日台でワースト10入りを果たした。確かに傍聴者も眠気を催すような議場での「議論」ではあるが、高額報酬等を貰っている身であることを、しっかりとわきまえるべきである。これらの議員は、大半が5期以上のベテラン議員で、議場の後方にその席がある。後方席と居眠りは何か相関関係でもあるのだろうか？ ワースト10の中で注目すべきは、2期目にしてワースト6位に入った鎌田議員で

ある。議場の前方で、市長始め執行部の目の前での「居眠り」だけに、傍聴者には大いに気にかかるところである。ところで居眠りにも「うつらうつら」から長時間の「熟睡」までいろんなパターンがあるが、上位陣は圧倒的に「熟睡型」が多い。例えばワースト1の笠原議員は、評価対象となった11定例会の全てで、「長時間」「熟睡」と指摘され、平成20年第3回定例会では、その時間が「60」分に及んだ日（9月17日）もある。なお、傍聴者の間では、居眠り防止対策として、ベテラン議員の議席を前方に代え、椅子も傍聴者と同程度の硬いものに代えたらどうかという声が上がっている。

### (3) 私語ランキング

さて、私語ランキングだが、私たちは、気の利いた「寸鉄人を刺す」ヤジは、議論を活成化することにもなるので、私語（単なるおしゃべり等）にカウントすることはしない。しかし、残念ながらそうした例にはほとんど遭遇できなかった。おしゃべりは前後左右の人とすることが多いわけだから、おしゃべり好きが席を並べると、カウントはどんどん増えてしまう。話しかけられたから、それに応えているだけだという議員もいるかも知れないが、見るところ、いやいやおしゃべりしているようには見えない。ワーストランキング10には、鈴木繁雄、大泉鉄之助、佐々木両道、岡征男、小山勇朗、伊藤新治郎、福島かずえ、佐藤正昭、八島幸三、斎藤建雄と、これまた5期以上のベテラン議員が顔をそろえる。鈴木、大泉、佐々木の3議員がワースト1、2、3位を占めたが、81～85%以上の会期日でおしゃべりをしてきたことになる。おしゃべり好きな議員のなかには、感心なことに、居眠りはほとんどしない議員もいる。居眠りをしないために、さかんにおしゃべりをしているのではないとは思うのだが……。1日におしゃべりした回数では、鈴木議員の37回（平成22年9月14日）が一番多く、次いで岡議員の30回（平成21年12月14日）、佐々木議員の28回（平成20年9月11日）と続く。

### (4) 総合計ランキンガーワースト10とベスト10

以上の3項目の数値を合計したものを、総合計ランキングとしてランク付けすると、他を大きく引き離してワースト1位となったのは、岡征男議員。3項目全てでワースト5入りしたのは、岡議員だけであるから当然の結果といえよう。以下ワースト10には、鈴木繁雄、佐々木両道、笠原哲、伊藤新治郎、大内久雄、庄子晋、渡辺公一、小山勇朗、佐藤正昭の各議員が名を連ねる。任期で分けると、5期2名、6期5名、7期2名、10期1名で、いずれもベテラン及び超ベテラン議員である。

最後に、議場での態度がすこぶる良い、という結果の出た議員を紹介しておこう。3項目での指摘が0は、加藤和彦、跡部薫、小田島久美子の3議員、1は、橋本啓一、小野寺利裕の2議員、2は小野寺健、高見のり子、嶋中貴志、ふなやま由美の4議員。3はすげの直子、鈴木広康、西澤啓文の3議員で、ここまでがベスト10ということになる。12人中11人を1、2期目の若い議員が占める中に、4期目の西澤議員が1人割って入ったという形である。

ここで一言ふれておきたいのは、携帯電話の議場への持ち込みと操作が散見されることである。何らかの対策が必要とされているのではなかろうか。